

# 野々市市消費者生活センター主催「こどものまちボンボンタウン」と野々市市主催「こどもミュージアム」の活動に携わって

団体名●こども学科3年生 連フィールド／代表者名●連桃季恵(人間科学部助教)

## はじめに

本フィールドは、2016年度より一般社団法人はぐネット(旧:ののいちはぐドットネット運営委員会)と連携してフィールド活動を行ってきた。一般社団法人はぐネットは、「こどもをまんなかに手をつなごう」を合言葉に、子育て世帯と地域をつなぐ役割を担い、様々な企画を運営している。2019年度においては、野々市市消費者生活センター主催「こどものまちボンボンタウン」と、野々市市主催「こどもミュージアム」の企画運営を任せられ、本フィールドはこの2つの事業に学生ボランティアとして携わった。

## 活動内容

まず、体験型消費者教育事業「こどものまちボンボンタウン」は、1979年からドイツで開催されている Mini-München にならった、こどもが主体となつて「まち」をつくる遊びのプログラムである。6月8日(土)の学生ボランティア説明会から始まり、はぐネットの担当者との打ち合わせを重ねて、8月27日(火)28日(水)の本番に至った。本フィールドは、特にこどもの安心安全にかかわる分野と衣装等の制作にかかわる分野を担当した。

次に「こどもミュージアム」は、クリエイティブな活動を子どもたちに提供することを目的に、様々な分野の専門家を講師として様々な活動を企画し、その活動の合間に自由あそび時間が設けられている。本フィールドは、8月2日(金)における自由遊び時間において、「お菓子の家をつくろう」と題した企画を行った。

## 成果、結果の考察

この企画にかかわることによって、学生たちは“子どもの主体性を引き出すための環境構成”や、“子どもの主体性を大切にする大人のかかわり方”などに関して、一般社団法人はぐネットの方々や保護者の方々、そして他大学の学生と交流することによって、体験的に学び、且つ知識として蓄積していくことができた。また、自分たちが考えたアイデアが、子ども

もたちのどのような行動や表情を引き出すのか確認することを通して、活動を組み立てる上で必要な要素を学生なりに感じることはできたのではないかと考えている。

## 今後の課題、展望

来年度においても、一般社団法人はぐネットなどの地域の方々や他大学の学生との連携を行っていく予定である。今後は、これまで以上に学生が主体となり活動を行っていくことを目指したい。



写真1 ボンボンタウンにおけるスタッフ一同



写真2 こどもミュージアムにおけるお菓子の家づくり